

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

郷土を愛し、確かな学力と豊かな心を持った、

たくましく生きる児童の育成

～ とともに育てよう みんな輝き 笑顔いっぱいの なばきっ子 ～

(1) めざす児童像

- ◎ (か) かしこい子 (よく考え、ともにのびる子ども)
- ◎ (が) がんばる子 (たくましく、未来を拓く子ども)
- ◎ (や) やさしい子 (心やさしく、たすけあう子ども)
- ◎ (き) 郷土を愛する子 (ふるさとに誇りをもつ子ども)

(2) めざす学校像

- ◎ ふるさとを愛する子どもを育てる学校
 - ・ 子どもたちが、地域の良さを体感できる学校
 - ・ 地域・保護者に信頼され、地域に根ざした学校
- ◎ わかる授業を実践する学校
 - ・ わかる・できる・たのしいが実感できる学校
 - ・ 子ども理解を基にした、個に応じた指導・支援が展開される学校
- ◎ 安全で生き生きと活動できる環境の整った学校
 - ・ 元気よく運動や遊びをする子どもたちでいっぱいの学校
 - ・ 美しい環境、安全安心が守られている学校
- ◎ 教職員にとって「働きがいのある」学校
 - ・ 協力・協働の姿勢に基づく意欲的な経営参加のできる学校
 - ・ 互いに切磋琢磨して教師としての資質向上を図り、職務が責任遂行できる学校

(3) めざす教師像

- ◎ 人間性豊かで、教育愛と使命感に満ちた教師
- ◎ 社会の変化に主体的に対応できる高い向上心を備えた教師
- ◎ 児童の成長と発達を理解し、悩みや思いを受け止め、支援をできる教師
- ◎ 幅広い教養と、学習指導の専門性を身につけた教師
- ◎ 高い倫理観を持ち、心身ともに健康で、明朗快活な教師

2 学校経営の方針

(1) 基本原則

- ・ 「子どものためになるか」を基準に法的、教育的、人間的の3点から判断する。
- ・ 問題は「チーム南白亀」で対応し解決する。

(2) 教育は人なり

- ・ 人間性を高め、自己を磨き上げる(エレベーション)。
- ・ チャレンジ・成長(子ども理解の力、学級経営力、授業力、生徒指導力、保護者・地域と関係性を築く力等)・貢献し続ける。

(3) 環境が人を育てる

- ・ 安心・安全、美しく落ち着いた環境の中で、児童が生き生きと活動できる学校環境をつくる。
- ・ 教職員集団の同僚性を意識し、互いに助け合い、認め合い、明るい雰囲気とチームワークのとれた職場環境の向上を図る。
- ・ 教室に心理的安全性(安心感)をつくる。
- ・ 地域の環境を生かした特色ある活動を行い、豊かな人間性と生きる力を育む。

(4) 地域に根ざした学校を目指す

- ・ 保護者や地域に愛され、信頼にこたえる学校づくりを推進する。

3 経営の重点

(1) 「地域とともに伸び、ふるさとを愛する子どもを育てる学校」づくりの推進

- ① 地域の良さを体感できる取組の充実を図る。
- ② 地域の人材(ふるさと教育部会資料)を積極的に活用する。
- ③ 「三者連携振り返りカード」を活用し、保護者との連携を強化する。
- ④ 保護者の来校の機会を多く設け、相互の意思疎通に生かす。
- ⑤ 各種たよりやHP等を活用した情報の発信に努めるとともに、内容の充実を図る。
- ⑥ 学校・家庭・地域の架け橋をめざすPTA活動の推進に努める。
- ⑦ 小保連携、小小連携、小中連携を進め、児童、教職員の交流に努める。
- ⑧ 地域懇談会や学校評価委員会などの地域との話し合いの活動を充実させて、学校改善の方策をともに考えていく。

(2) 確かな学力の育成

- ①白子町小中連携プランをもとに、望ましい学習習慣、学習規律を身につけさせ、学習に臨む姿勢の改善に努める。
- ②「わかった、できた」という体験が多く持てる学ぶ楽しさを味わうことのできる授業の実現を図り、学習意欲の向上を図る。
- ③「聞き方名人」「話し方名人」の指導を徹底し、全教科において言語活動の充実を図る。
- ④自ら進んで読書に親しむ意欲を育て、読む力の向上と表現力の育成に努める。
- ⑤『『思考し、表現する力を高める』実践モデルプログラム』を活用し、授業改善に努める（自分の言葉でまとめが書ける授業を）。
- ⑥ICTの活用、指導体制の整備を進め、個に応じた指導の充実を図る。
- ⑦見方・考え方がはたらく板書や発問の工夫に努める。
- ⑧外国語活動、外国語科の指導の充実と文化の多様性を受け入れる寛容な姿勢を育む。
- ⑨「家庭学習の手引き」を活用し、家庭と連携した家庭学習の習慣化を進める。
- ⑩各教科・領域、行事、地域を結ぶ特色ある教育課程を編成する。

(3) 豊かな人間性の育成

- ①学級活動を通じた望ましい学級集団づくりに努め、学級経営の充実を図る。
- ②「特別の教科 道徳」を中心とした道徳教育の充実を図る。
- ③キャリア教育の視点で、清掃活動や係・委員会活動など働くことの意義を理解し、積極的に活動する児童の育成に努める。
- ④一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。
- ⑤豊かな情操を育てる掲示に努め、心を育てる環境づくりの推進に努める。
- ⑥公共マナーの遵守と情報モラルの指導の徹底を図る。

(4) 生徒指導の充実

- ①友達関係や自分の居場所（心理的安全性）づくりに配慮する。
（「ルール（秩序）←リーダーシップ」と「リレーション（つながり）」←カウンセリング・マインド）
- ②だれかの役に立っているという自己有用感を高める。
- ③個々の言動から心情を察し、願いを受け入れ全職員で協力して指導にあたる。
- ④教職員一人一人がいじめは絶対に許されないという信念を持ち、いじめに対する防止対策づくりを進め、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の充実を図る。
- ⑤一人一人が大切にされ互いに助け合える学級集団づくりを進め、人権に配慮した学校づくりに努める。
- ⑥基本的な生活習慣やルールの意義を指導しつつ、その定着を図る。
- ⑦明るく元気なあいさつができるようあいさつ運動の推進を図る。
- ⑧人権意識の向上、規範意識の醸成を図るとともに自尊感情を高め、命を大切にする心の育成に努める。
- ⑨教育相談活動の充実を図る。

(5) 健康・安全教育の充実

- ①教育活動全体はもとより家庭との連携を密にし、「早寝早起き朝ごはん」を合い言葉に、「町小中げんき君プラン」を活用し、生涯にわたって自ら健康づくりを進める基礎的な力を育成していく。
- ②校庭の全面芝生化を生かした体育の授業開発や外遊びの励行をし、学校全体で児童の体力向上に取り組む。
- ③養護教諭との連携を密にし、児童個々の心身の健康状態の把握と指導に努める。
- ④栄養士等と連携し、給食指導の充実、食育の推進を図る。
- ⑤学校医等・地域の保険期間等・地域住民による学校保健委員会を組織し、児童の健康課題の解決を図る。
- ⑥自分の命は自分で守る」児童を育成するために、危険を予測し、回避する能力を高める指導に努める。
- ⑦危機管理マニュアルにそった指導および対応の徹底を図る。
- ⑧防災・避難訓練（地震・火災・津波・不審者）を行い、避難の徹底を図る。
- ⑨感染症について正しい知識を身につけさせるとともに、予防対策の徹底を図る。

(6) 教職員の指導力の向上と協働体制の確立

- ①日々の研修の充実を図るとともに、授業研究を実施し、授業力の向上を図る。
- ②目標申告によって年間を見通した具体的な目標を設定するとともに、自己評価を常に行い、自己変革をする教職員となるよう努める。
- ③報告・連絡・相談の徹底を図り、情報の共有・課題の共通理解・協働の意欲・コミュニケーションの推進に努め組織的・機能的な校務分掌を推進する。
- ④週1回のノー残業デーを設定するなど、教員の健康管理に努める。
- ⑤教職員の意識の高揚と不祥事防止に関する研修会の実施に努める。
（モラールアップ委員会の活用、教職員のメンタルヘルス、福利厚生の実施）